読んだ本（真鍋　真／著）　Gakken

『恐竜学』

川崎市立百合丘小学校一年　田中（たなか）　道哲（みちあき）

ぼくは恐竜のまねをするのがすきです。どんな動物よりも強くてかっこいいからです。だから恐竜のことをもっと知りたくて「恐竜学」を読みました。

この本で一番おどろいたことは、肉食恐竜のものは2年に一度生えかわるということです。えものを食べるときや、ライバルと戦う時にはをつかいます。そのためはがおれることも多いらしいと思います。はがなければ恐竜は生きていけないまして、生えてくるはがおれても、また、生えてくるなんて人間にはありえないからすごいです。

また日本にも恐竜がたくさんいました。ぼくが知らなかった恐竜をしょうかいします。「フクイヴェナトル」と「フクイティタン」です。ぼくはこの恐竜の化石が見たくて夏休みにふくいけんの恐竜はくぶつかんにつれてもらいました。「フクイヴェナトル」の骨格ひょう本を見て、とてもかっこよくて、ぼくのすきなヴェロキラプトルにていて、すきになりました。きっとフクイヴェナトルも頭がよかったのだろうなと思いました。

そして、じっさいに化石もほっておりみました。この本にかいてあったとおり道具で化石をほるときに「トン」とうちつけるのがとてもかたくてくろうしました。ぼくは二まい貝と植物の化石を見つけることができました。ぼくのおじいさんは恐竜の化石を見つけるのがむずかしいと言っていましたが、はくぶつ館にいた恐竜はかせは、「かならず見つかるんだよ」と教えてくれましたら見つかるんだと思ってさがした。つぎこそは恐竜の化石を見つけて研究したいと思います。この本をかいた恐竜はかせもきっとそういう気もちで化石をはっくつしたんだろうなと思いました。

みんなもこの本を読んだら恐竜がすきになるかもしれません。